

No. 80
2022.9

世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM



舟越保武 無題〔画稿 萩原朔太郎〕 世田谷文学館蔵

巻頭エッセイ

「遠き山に日は落ちて」

亀山郁夫（世田谷文学館 館長）

遠き山に日は落ちて



世田谷文学館館長
亀山 郁夫

夕方五時になると決まって町の防災無線スピーカーから流れだす音楽がある。ドヴォルザークの交響曲『新世界より』第二章「家路」。ごく幼い頃から耳になじんできた音楽だが、日によつて微妙にメロディの表情が異なることに気づく。むろん、この音楽にふさわしい風景は、夏の日の美しい夕映え。しかし率直に述べる、すでに老いはじめた私の心にひびくものは薄く、半世紀以上の時の流れのなかで、この音楽のもつ幽玄な何かが確実に朽ち果てていったことを実感する。朽ち果てていった何かとは、ほかでもない、「ノスタルジア」の感覚である。

ノスタルジア…。わたしがこの言葉のひびきにとくに惹かれてきた理由とは何だったのか。辞書で確認してみると、ギリシャ語源で「ノストス（＝故郷）」と「アルゴス（＝痛み）」の合成語とあつた。これまで、「郷愁」という漠とした感覚で置き換えてきたこの言葉に、「痛み」の意味が含まれていることを知つて、驚いた。「ノスタルジア」は、故郷喪失者の、帰るに帰れない苦しみと理解すべきだったのだ。

私自身、このノスタルジアの感覚に、悶えるほどの苦しみを味わつたことが一度だけある。今

から半世紀前の1975年の夏、初めてロシアの土を踏んだ翌日のこと。日本海を船で渡り、ナホトカから夜行列車でハバロフスクに着いた日の午後、その感情は、突如、嵐のように襲つてきた。すぐにでも空港にタクシーを走らせ、日本に帰りたいと願つた。だが、それらにかかる費用や手間を考えるうち、嵐はふつと何ごとともなかつたかのように過ぎていった。帰るに帰れないドラマは、ものの15分ほどで終わった。

2011年3月の東日本大震災直後、普段は何気なく聞き流している「ふるさと」の合唱に大泣きした。これもまた、貴重な「ノスタルジア」体験の一つといえると思う。瓦礫と化した海辺の町を思いつつ「ふるさと」の歌を口づさんでいたとき、そこに、私自身が長く禁忌としてきた「愛国」の情が露わに吹き出してくるのを感じてとまどいを覚えた。なぜなら、栃木出身の私は、厳密な意味で故郷喪失者とはいえなかつたから。三ヶ月後、東北自動車道を北上し、北は大槌町から南は相馬までの海岸の道を二日ばかりで走破した時、私の脳裏につねにこだましていたのが、杜甫の有名な一行「国破れて山河あり、城春にして草木深し」だった。

私は立派な「愛国老人」にならうとしていた。そして今、焦土と化したウクライナの町や村の映像に接するたびに、帰るに帰れない人々の胸の内に思いを馳せる。世界各地に散つた人々の「郷愁」は、ドヴォルザークの「家路」が誘いだす甘美な懐かしさとはおよそ趣の異なる、語の正確な意味での「ノスタルジア」なのだと思う。顧みるに、生命力の衰えは、ノスタルジアの感覚の鈍化に通じている。ノスタルジアは、時と

ともに内面化され、遠い自分が生きた時代への

「郷愁」や「懐旧の情」に変容していく。過去の出会いの記憶だけが、ほそぼそと生命力を保っている感じである。だとしたら、わたしたちはむしろそこに居直り、過去との「出会い」をよりいきいきと甦らせることに活路を見いだすべきなのかもしれない。たしかに、気負い立つて新たな出会い、新たな冒険に乗り出そうという気概も大事である。しかし、私たち自身、それらの体験がノスタルジアの感覚へ十分な発酵を遂げるまで生きられる保証はない。それならば一刻も早く「再会」の営みに着手するのが賢明というものだ。

方法はいくらでもある。若い時代に読んだ小説を読み返すのもいい、プライムビデオで懐かしの名画を探しだすのもいい。YouTubeなら、それこそ夢のような、お宝もののアーカイヴとめぐり会える。時として苦い思い出までもが甦り、自分の幼さを思い知らしめられる瞬間もあるだろうが、それらを補つてあまりある、熟成した記憶たちが私たちの決心を待ち受けている。還暦の年、およそ45年ぶりに漱石『こころ』を読み直した私は、この小説を初めて手にした高二時の記憶を根底から揺るがすような、激烈な「再会」を経験した。最近では、ラフマニノフの名曲『バガニニ』の主題による狂詩曲の有名な第18変奏に、思いもかけず深く胸を揺さぶられている。どうやら、通俗的とみなし、敢えて遠ざけてきた作品のほうが、より新鮮な再会を約束してくれるようである。

そして今、私の手もとにあるのが、萩原朔太郎の『純情小曲集』。やはりこれも半世紀ぶり

月に吠えよ、萩原朔太郎展 Sakutaro Hagiwara: Howl at the moon

2022年10月1日[土]～2023年2月5日[日]

企画展のご紹介

光る地面に竹が生え
…… 竹、竹、竹が生え。

〔竹』『月に吠える』より〕

日本の近代詩を代表する詩人、萩原朔太郎（1886～1942年）。教科書などを通してその詩の鮮烈なイメージとリズムに出会い、衝撃を受けた人も多いことでしょう。世田谷は朔太郎が晩年を過ごした土地です。没後80年を記念して全国で横断的に開催される「萩原朔太郎大全2022」の一環として、当館でもこの不世出の詩人に新たな光を当てます。

「人は一人一人では、いつも永久に、永久に、恐ろしい孤独である」〔『月に吠える』序文より〕と書いた朔太郎の詩は、世代や立場による分断が進み、気づけば一人一人が孤立を余儀なくされている現代の私たちに鋭く、強く迫つてきます。しかし朔太郎は続けて、人間同士に共通するものを発見するとき「我々はもはや永久に孤独ではない」とも書いています。生活のすべてを詩に捧げた人間がもつ孤独の先に、朔太郎は何を見たのでしょうか。書き遺された膨大な原稿やノートなどの資料や、朔太郎に触発された現代の作家たちによる作品を通して見ていきます。

4 詩を体感する

視覚的な会場デザイン、自分で詩を作る体験型インスタレーション、オートマタ(自動からくり人形)作品などを通して詩の世界を体感できます。



TOLTA(ヴァーバル・アート・ユニット)《地面の底の朔太郎の顔》2022年
※画像は過去のインスタレーションより「ポジティブな呪いのつみき」(2019年 撮影:白井晴幸)



助成:令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業



▼有賀眞澄 五十嵐正子 大原莊司 樺澤洋子 川喜多八潮 川喜多晶子 神立春樹 小菅麻起子 鈴木史 塚田吉昭 野田能成 野本瑞美 堀司衛子 松井国央 村田軍司 山本幸久

▼阿部知二研究会 伊豆市教育委員会 伊豆文学フェスティバル実行委員会 井上靖記念館 茨城県常総市節のふるさと文化づくり協議会 茨木市立川端康成文学館 いわき市教育文化事業団 岩波書店 白井吉見文学館 うらわ美術館 愛媛県生涯学習センター 大川市立清力美術館 大田区立龍子記念館 小川未明文学館 賀川豊彦記念・松沢資料館 学習院大学史料館 神奈川県立近代美術館 紙の博物館 聞き書き甲子園実行委員会 北九州市立文学館 北九州市立松本清張記念館 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 京都府文化スポーツ部文化芸術課 群馬県立土屋文明記念文学館 慶應義塾大学アートセンター 江東区砂町文化センター こおりやま文学の森資料館 国文学研究資料館 国立新美術館 越谷市立図書館 さいたま文学館 斎藤茂吉記念館 四季派学会 司馬遼太郎記念館 渋沢史料館 シュクリウム 周南市美術館 杉並区立郷土博物館 静嘉堂文庫美術館 大正大学 高遠書房 高山市文化協会 たましん地域文化財団 多摩美術大学芸術人類研究所 多摩六都科学館 遅筆堂文庫 鶴岡市立藤沢周平記念館 帝京大学総合博物館 東京学芸大学大井田研究室 徳島県立文学書道館 豊島区文化商工部文化デザイン課 富山県芸術文化協会 新南吉記念館 日本現代詩歌文学館 日本博物館協会 沼津市若山牧水記念館 飯能市教育委員会 姫路文学館 深沢・桜新町さくらフォーラム 福岡市文学館 福田正夫詩の会ふくやま文学館 仏教伝道協会 文化書房博文社 文京区立森鷗外記念館 文京ふるさと歴史館 北海道文学館 松山市立記念博物館 三島市郷土資料館 三鷹市美術ギャラリー 武蔵野美術大学美術館・図書館 武蔵野ふるさと歴史館 山形県・上山市・上山教育委員会 山梨県立美術館 山梨県立文学館 横光利一文学会 与謝野晶子倶楽部 吉村昭記念文学館 立教大学江戸乱歩記念大衆文化研究センター 早稲田大学大学院教育研究科近代文学ゼミ

▼「海」「海紅」「風」「カプリチオ」「経堂雜記」「空想カフェ」「くさくさ」「原野富士」「鴻」「心の花」「詩霊」「春耕」「抒情文芸」「川柳研究」「蠶」「短歌人」「探偵随想」「地中海」「となりあふ」「飛火」「アチ★モンド」「文章歩道」「窓」「ランブル」「りんごの木」「暦日」(五十音順・団体名敬称略)

みどころ

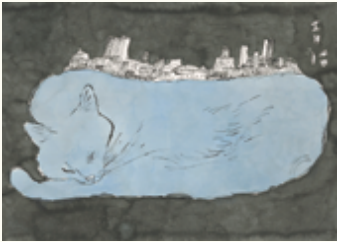
※作品・資料は会期中、一部展示替えを行ないます

1 生み出される詩

朔太郎の原稿やノートなどから、詩の創作過程に迫ります。



金井田英津子《猫町》(1997年)



松本大洋《東京の青猫》(2021年)



朔太郎がデザインした椅子(復元品 前橋文学館蔵)



の「再会」である。朔太郎は「自序」に、「あるひとの來歴に對するのすたるぢや」を「追憶」するためと書いたと記したが、「あるひと」とは、いうまでもなく、朔太郎自身を言っている。「小曲集」の中から、フランス文化への漠とした憧れにひたる高二生の心を心地よく慰めてくれた詩を引用しよう。

ふらんすへ行きたしと思へども

ふらんすはあまりに遠し

せめては新しき背廣をきて

きままる旅にいでてみん。

大学時代、私は、ロシア語の学習に励むかたわらフランス語を独習し、アルペール・カミュの戯曲『カリギュラ』の原文に挑戦した。かりにフランス文学者になれたら、まっさきに翻訳してみたいと思つた小説が、アンドレ・ジッドの『田園交響楽』である。大学を出てから何年かに一度、新しいスーツを誂えるたびに朔太郎のこの詩を思い出し、気持ちがちがつと改まるのを感じた。知人の別荘を訪ね、千曲川沿いの「山道」に車を走らせていたときも、なぜか思いがけずこの詩が蘇つた。そして改めて『純情小曲集』を手にした私は、かつて何度も訪れたことのあるフランスの街並みの記憶以上に、何かしらほのぼのとした働きかけを受けている。ディテールのない、フランスという華やかな幻影がそこに立ちあがつている。むろん、痛みはない。だから、これを「ノスタルジア」と呼ぶことはできない。それはともかく、若い日に経験したフランス文化への憧れは、今なお私の心のなかで、微かながらも淀みなく脈を打ちつつけているような気がする。

資料受贈報告―2022年1月28日～6月30日

令和3年度の企画展は「イラストレーター 安西水丸展」描くひと谷口ジロー展」の2本を実施した。「安西水丸展」は当初4月25日〜8月31日会期でスタートしたが、オープンの翌日から緊急事態宣言により休館を余儀なくされた。その後、関係各所のご厚意を得て急遽、9月20日までの会期延長が決まった。展覧会は区内・近隣のみならず全国からご来館いただくことが常であり、楽しみに待っていただく方々に少しでもご覧いただける機会をつくることのできたことは喜びだった。「谷口ジロー展」も当初は今年度4月からの会期予定で準備していたが、度重なるスケジュール調整を経て、会期もできるだけ長期に設定して実施した。

2つの企画展は、数年にわたり続いている不安な日常の中、生涯にわたってゆるぎなく自己の表現を築き上げた作家たちの世界観をお届けすることで、文化がもたらす安定・信頼を示すことができたと思っている。

コレクション展前期は、令和元年度に寄贈を受けた昭和文学を代表する作家・石川淳の貴重な原稿や執筆メモ、交流した文学者、研究者からの書簡などを紹介する「受贈記念 夷齋先生・石川淳」を開催した。後期は昨年度25周年を迎えた当館の10万点を超える収蔵品のなかから選りすぐりの資料紹介を「セタブン大コレクション展」と銘打ち実施した。当該年度は「PARTー ふかくこの生を愛すべし」として約200点を資料にまつわるエピソードとともに紹介、あらためてここまで収集保存に関わった方々への感謝の念を強くした。

普及事業では、地域と密着した事業展開を軸に、出張展示や多彩なワークショップを実施する「ほんのむしプロジェクト」を実施した。出張展示は安定した活動ができ、例年の区内学校・図書館・区民センターに加え、全国への貸出しを拡大し、山梨県立文学館ほかで展示が実現した。ワークショップは令和3年度もオンラインでの実施が多くなったが、当館も配信設備を含め参加しやすい環境を整え、運営も

TOPICS

企画展 展示風景



イラストレーター 安西水丸展 写真：永禮 賢
4/24〜9/20 [臨時休館 4/25〜5/31のため会期延長] (計画会期 4/24〜8/31)



描くひと 谷口ジロー展 写真：鈴木 渉
10/16〜2/27

コレクション展 展示風景



受贈記念 夷齋先生・石川淳
4/24〜9/26 [臨時休館 4/25〜5/31]



世田谷文学館開館25周年記念 セタブン大コレクション展PARTI ふかくこの生を愛すべし
10/16〜3/31

催事



「ほんとわラジオ」エフエム世田谷(83.4MHz) パーソナリティ：河西美紀 第1回放送
出演：亀山郁夫(世田谷文学館館長) 前編 1/6・後編 1/20放送
ライブラリー「ほんとわ」台湾特集 選書：太台本屋 tai-tai books 9/4〜10/14



よりスムーズになった。一方、感染症対策を徹底してリアルに開催したワークショップでは、対面ならではの感動・充実感があつたことも事実である。今後も、利用者により良い形で提供できるプログラム開発を続けていければと考えている。また、区民の創作活動の発表の場として、詩・短歌・俳句・川柳・エッセイ作品を募集する第36回「世田谷文学賞」を実施した。応募者年齢も最高齢者98歳、最年少14歳という幅広い年齢層から合計770作品の応募があつた。上位入賞作品は冊子「第36回世田谷文学賞 受賞作品集」等に掲載した。

クシオンをひろく情報提供することが可能となるホームページ検索を充実させた。第二弾となる「植草甚「関連資料」を加え、映画監督「成瀬巳喜男関連資料」も公開に向けて準備することができた。広報活動では、ホームページのリニューアルと、SNSを活用した情報発信の強化の年となった。当館ツイッターのフォロワーは1万人を超え、記念イベント開催のほか、「セタブン大コレクション展」と連動した定期的な資料紹介により、文学館の存在を知らない方々にも資料の魅力を伝えることができた。また、ご自宅でも楽しめる音声コンテンツ「セタブン・ポッドキャスト」や、25周年記念イベントとして実施し

た「ほんとわラジオ」なども新しい発信方法のひとつである。1階のライブラリーは平成27年度「ほんとわ」という名称でリニューアルし、ユニークな書棚作りやキッズコーナーの設置などで利用者も大幅に増えたが、次の試みとして「ほんとわ」を拠点として発信するラジオ番組制作を行った。当館が様々な事業の中で交流いただいていた多彩なゲストをお招きし、文学・映画・音楽・美術などジャンルを超えたお話を繰り広げ、世田谷文学館ならではのコンテンツづくりを目指した。今後もリアルとオンライン双方で、館での活動のほかにもさまざまな媒体をとおして「セタブン」発信の文学の魅力をお伝えしていく。

催事



ワークショップ「絵本のような傘をつくらう」
講師：前川拓路(中川ケミカル) 6/26



ワークショップ「俳句色紙を作る」
講師：佐藤文香(俳句作家)、原麻理子(イラストレーター) 7/3



オンラインイベント「巨人伝説を探れ！
〜ダイダラボッチ探検隊を募集〜」
講師：高橋大輔(探検家) 8/21



オンラインワークショップ「だれでも小説家」
〜ショートショートを書こう〜
講師：荒居蘭(作家) 9/4・5・12



ワークショップ「もっと朗読を楽しもう」
〜プロの読み方を聞いてやってみよう〜(芦花小学校共催)
講師：緒方賢一(俳優、声優)、水田わさび(声優) 12/11



ワークショップ「ひと箱本屋のつくりかた」
ナビゲーター：和氣正幸(BOOKSHOP TRAVELLER)
インタビュー出演：安村正也(Cat's Meow Books)、宮重倫子(July Books)
講師：小林良壽、小林あかね(古書まどそら堂) 10/2・23、11/13



「生業がし」ー漫画にかかわる仕事ー
講師：大場渉(KADOKAWA『青騎士』編集長)、入江亜季(漫画家) 11/7



オンラインワークショップ「ことばとからだ」〜ダンスでつながろう〜
講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部(顧問：松澤慶信) 12/12



出張展示「シート動物記」展 2/23〜3/31

2021(令和3)年度
事業一覧

1 展覧会			
展覧会名	会期	日数(日)	一般観覧料(円) 観覧者数(人)
●コレクション展			
前期 受贈記念 夷齋先生・石川淳	4/24～9/26 [臨時休館 4/25～5/31]	103	200 4,268
後期 セタブン大コレクション展 PART 1	10/16～3/31	128	200 7,985
●企画展			
イラストレーター 安西水丸展	4/24～9/20 [臨時休館 4/25～5/31のため会期延長] (計画会期 4/24～8/31)	129	900 27,627
描くひと 谷口ジロー展	10/16～2/27	111	900 21,751
		合計	61,631

2-1 普及事業:どこでも文学館(出張展示)

●展覧会名(無料)			
会場	開催日	観覧者数(人)	
●「寺山修司のスヌメ」展			
梅丘図書館	4/1～4/14	3,400	
川場村なかのビレジB棟	6/19～10/19	3,020	
●「SF入門 星新一」展			
梅丘図書館	4/1～6/16	18,950	
奥沢区民センター	6/25～7/9	1,172	
玉川中学校	10/6～10/27	365	
祖師谷小学校	10/11～10/22	696	
池之上小学校	11/1～11/26	309	
八幡小学校	11/26～12/24	344	
●「セタブン人生相談ーあなたのための人生処方箋」展			
川場村ふじやまビレジ食堂前	4/1～6/18	1,251	
駒沢中学校	9/27～10/8	366	
粕谷区民センター	1/26～2/3	591	
●「原田治 OSAMU'S MOTHER GOOSE」展			
川場村ふじやまビレジせせらぎの湯	4/1～6/18	1,463	
コミュニティカフェ ななつのこ	7/23～9/1	891	
梅丘図書館	12/10～3/31	26,300	
●「山へ! to the mountains」展			
川場村なかのビレジB棟	4/1～6/18	559	
川場村ふじやまビレジせせらぎの湯	6/19～10/19	5,494	
●「台湾はどんな国?」展			
世田谷文学館	4/10～4/22	84	
世田谷文学館	9/4～10/14	857	
●「水丸さんのがたんごとん」展			
世田谷文学館	4/24～8/31	1,967	
コミュニティカフェ ななつのこ	9/3～9/29	975	
池之上小学校	10/4～10/29	309	
山梨県立文学館	11/20	1,113	
奥沢区民センター	11/26～12/24	1,591	
砧幼稚園	1/11～2/10	67	
●「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」展			
飯田橋ガーデン保育園	6/2～7/15	200	
中央図書館	7/30～8/25	19,398	
gallery Ten→Sen(千葉県松戸市)	10/9～11/28	418	
●「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」展			
祖師谷小学校	6/14～6/25	696	
船橋希望中学校	9/2～9/20	738	
阪急阪神百貨店西宮阪急	3/16～3/22	80	
●「宮西達也と子どもたち」展			
梅丘図書館	6/18～7/14	6,600	
太子堂小学校	10/14～10/28	405	
京西小学校	11/4～11/30	720	
医療的ケア相談支援センター Hi・na・ta	1/7～2/10	20	
●「井上ひさし ふかいことをゆかいに」展			
中央図書館	6/25～7/28	21,292	
●「北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展」展			
梅丘図書館	6/18～10/12	31,980	
川場村なかのビレジB棟	10/20～3/31	3,733	
●「水上勉のハローワーク」展			
川場村ふじやまビレジ食堂前	6/19～10/19	4,608	
●「宮沢賢治 幻想紀行」展			
奥沢区民センター	8/13～9/10	1,798	
山崎小学校	9/24～10/8	355	
松沢中学校	10/28～11/12	333	
船橋希望中学校	11/15～12/9	738	
芦花小学校	12/10～12/24	1,082	
●「若草物語 -Little Women-」展			
世田谷文学館	10/16～12/28	2,765	
●「シートン動物記」展			
世田谷文学館	2/23～3/31	690	
●「台湾はどんな国? スポーツ編」展			
川場村ふじやまビレジ食堂前	10/20～3/31	6,404	
川場村ふじやまビレジせせらぎの湯	10/20～3/31	7,678	
	合計	184,865	

2-2 普及事業:どこでも文学館(ワークショップ)ほか

内容(無料)	開催日	参加者数(人)
安西水丸展関連オンライントークイベント「水丸カレー部 集合!」 出演:角田光代(作家)×倉嶋紀和子(「古典酒場」編集長)	6/12	55
ワークショップ「絵本のような傘をつくろう」 講師:前川拓路(中川ケミカル)	6/26	13
ワークショップ「俳句色紙を作ろう」 講師:佐藤文香(俳句作家)、原麻理子(イラストレーター)	7/3	14
オンラインワークショップ「pipioといっしょにおはなしと工作の時間」(森の動物 ガーランドづくり) 講師: pipio(武本佳奈絵、平澤朋子)	7/24	45
オンラインイベント「巨人伝説を探れ! 〜ダイダラボッチ探検隊を募集〜」 講師:高橋大輔(探検家)	8/21	48
オンライン「ほんととわ」哲学カフェ(テーマ:『クマのプーさん』岩波少年文庫、 A.A.ミルン著、石井桃子訳) 講師:幡野雄一(NPO法人こども哲学おとな哲学アーダーコーダ)	8/29	12
オンラインワークショップ「だれでも小説家」〜ショートショートを書こう〜 講師:荒居蘭(作家)	9/4,5,12	39
台湾交流ミニイベント2021 オンライントークイベント「日本語で読める絶対面白 い台湾の本」 出演:太台本屋 tai-tai books 店長&店員	9/11	38
台湾交流ミニイベント2021 ポップアップストア 出店:MEILI美麗、茶嘉葉、キリン靴修理	9/18,19	688
ワークショップ「ひと箱本屋のつくりかた」①②③ ナビゲーター:和氣正幸(BOOKSHOP TRAVELLER) インタビュー出演:安村正也(Cat's Meow Books)・宮重倫子(July Books)＊①のみ 講師:小林良壽、小林あかね(古書まどそら堂)＊③のみ 協力:日本出版販売株式会社	10/2,10/23 11/13	30
活動支援事業・国土館大学共催レクチャー「国文学大会(オンライン)」	10/20	140
「生業さがし」ー漫画にかかわる仕事ー 講師:大場渉(KADOKAWA「青騎士」編集長)、入江亜季(漫画家)	11/7	5
ワークショップ「もっと朗読を楽しもう」〜プロの読み方を聞いてやってみよう〜 (芦花小学校共催) 講師:緒方賢一(俳優、声優)、水田わさび(声優)	12/11	160
オンラインワークショップ「ことばとからだ」〜ダンスでつながろう〜 講師:日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部(顧問:松澤慶信)	12/12	19
オンライン「ほんととわ」哲学カフェ(テーマ:『若草物語 I & II』より『夢のお城は?』) 1/29 講談社、L・M・オルコット著、谷口由美子訳 講師:幡野雄一(NPO法人こども哲学おとな哲学アーダーコーダ)	1/29	8
ワークショップ「ワン・ミニット・ムービー」〜オリジナルストーリーをつくろう〜 講師:本田友美(教育と探求社)、北阪昌人(脚本家)	1/30	10
活動支援事業・友の会共催講演会「さようなら安野光雅さん、半藤一利さん」 その他(職場体験、学芸員実習など)	2/6	68
	合計	1,438

3 ライブラリー・講義室等

施設	利用者数(人)
ライブラリー	15,614
講義室	972
くつろぎスペース	6,457

4 世田谷文学賞

応募者数	324
応募点数	770

4 文学資料収集・保管(点数)

令和3年度収蔵点数	405
令和3年3/31現在の収蔵品点数	101,085
特別閲覧点数	282
特別観覧撮影点数	34

5 刊行物

タイトル	判型/頁数	頒価(円)
●世田谷文学館ニュース		
第78号12月 巻頭エッセイ ごあいさつ ニューノーマル時代に新たな「驚き」を求めて 亀山郁夫(世田谷文学館館長)/2020年度世田谷文学館事業報告	A4/8	無料
第79号3月 館長の作家対談:菅野昭正(世田谷文学館名誉館長)/開館25周年記念事 業報告/「受贈記念 夷齋先生・石川淳」事業報告	A4/12	無料
●展覧会図録		
「イラストレーター 安西水丸」(株式会社クレヴィス発行)	B5変形/240	2,750円(税込)
「世田谷文学館コレクション図鑑」 (セタブン大コレクション展 PART I-II 図録)	B5/192	1,650円(税込)
●その他		
第36回世田谷文学賞受賞作品集	A5/110	無料
どこでも文学館報告書2021	B2(4ツ折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume9, 10	A3(6ツ折)/1	無料
本と輪 台湾特集 太台本屋 tai-tai booksが選ぶ「おおすすめの台湾本」	A3(6ツ折)/1	無料
2021年度コレクション展前期「受贈記念 夷齋先生・石川淳」	B5/12	無料

6 年間利用者数(人)

270,977

* 2021(令和3)年度 助成・協賛

【助成】芸術文化振興基金/文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



世田谷文学館開館25周年記念
セタブン大コレクション展 PART I
ふかくこの生を愛すべし



描くひと 谷口ジロー展



イラストレーター
安西水丸展

展覧会フライヤー

イベントフライヤー



夏期ワークショップ



ほんととわラジオ



世田谷文学館開館25周年記念事業
台湾交流ミニイベント2021



第36回
世田谷文学賞



冬期ワークショップ



生業さがし



ひと箱本屋のつくりかた

刊行物



ほんととわブックリスト
volume 10



ほんととわブックリスト
volume 9



第36回
世田谷文学賞受賞作品集



世田谷文学館
コレクション図鑑



受贈記念
夷齋先生・石川淳



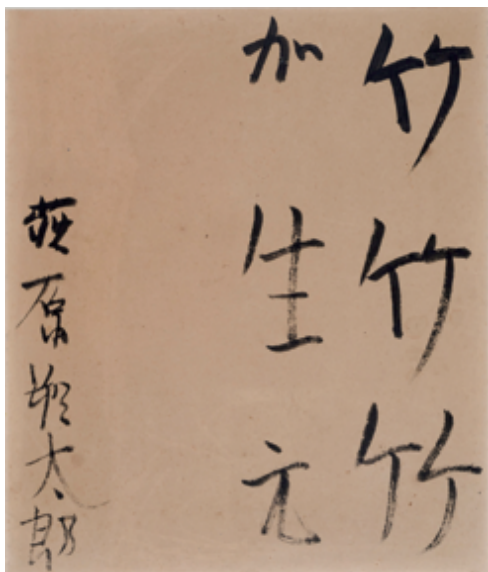
イラストレーター
安西水丸展

*10月7日(金)は65歳以上無料日
 *11月1日(火)は萩原朔太郎生誕記念無料日
 *新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、掲載の催事は変更や延期になる場合があります。ご確認の上、お出かけください

企画展

月に吠えよ、萩原朔太郎展

2022年10月1日[土]～2023年2月5日[日]



萩原朔太郎 色紙『竹 竹 竹が生え』

観覧料：
 一般900(720)円、65歳以上・大学・高校生600(480)円、中学生以下無料
 ※()内は団体割引・「せたがやアーツカード」割引料金

Special Exhibitions

Sakutarō Hagiwara: Howl at the moon

Exhibition period: Oct.1 (Sat.) - Feb. 5 (Sun.)

Admission fee: General 900 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 600 yen, Students (Junior High, Elementary School) free

ご来館にあたってのお願い

当館では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、換気を含めて衛生管理を徹底させ、会場運営を行います。お客さまにおかれましては、次のことへのご協力をお願いいたします。

- 感染症対策のため、混雑時は入場を制限させていただきます。
- 37.5℃以上の発熱のある方は入館をお断りします(入館時に検温させていただきます)。
- 館内ではマスク(もしくはそれに代わるもの)をご着用ください。
- 咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方。体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- 感染症対策のため、お客さまの個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合があります。
- クロークサービスはございません。大きなお荷物でのご入館はお控えください(ベビーカー置き場はあり)。
- 駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください。

利用案内

開館時間:10時～18時(展覧会入場は17時30分まで)

休館日:毎週月曜日(月曜が祝日の場合は開館し翌日休館)

年末年始(2022年12月29日～2023年1月3日)・館内整備休館(2月21日～28日)

割引料金:企画展・コレクション展ともに団体(20名以上)は2割引 ※団体利用は事前にお問合せください。障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額。

コレクション展は世田谷区内在住、在校の小・中学生:土曜、日曜、祝・休日は無料

交通案内:

京王線 「芦花公園」駅南口より徒歩5分
 小田急線 「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)「芦花恒春園」下車徒歩5分

*駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用ください



コレクション展

下北沢猫町散歩

2022年10月1日[土]～
 2023年3月31日[金]

観覧料:
 一般200(160)円
 高校・大学生150(120)円
 65歳以上・小・中学生100(80)円
 ※()内は団体割引・「せたがやアーツカード」割引料金



萩原朔太郎『猫町』版画荘

同時開催 ムットーニのからくり劇場

Permanent Collection

Cat town walk in Shimokitazawa

Simultaneously held: Muttoni's Puppet Theater

Exhibition period: Oct.1 (Sat.) - Mar. 31 (Fri.)

Admission fee: General 200 yen, Students (University, High School) / Seniors (Over 65) 150 yen, Students (Junior High, Elementary School) 100 yen

*Elementary and junior high school students, who studies or resides in Setagaya city, are admitted free on weekends, national holidays, and during the summer holidays.

Safety Precautions when Visiting the Museum

In operating the Setagaya Literary Museum, we take every precaution to maintain hygiene, including ventilation, in order to prevent the spread of Covid-19 infections. We ask visitors for their cooperation in the following.

- As a measure to prevent infections, we limit admission during busy times.
- We refuse admission to those with a fever of 37.5℃ or higher. (Temperatures are measured when entering.)
- Please wear a mask (or the equivalent) while in the museum.
- We ask that you refrain from visiting if you have a cough, sore throat or other cold-like symptoms, if you feel unwell.
- As a measure to prevent infections, we may provide visitors' personal information to public health centers and other public agencies as necessary.
- We do not provide checkroom services. Please refrain from bringing large luggage when visiting. (A baby carriage storage area is available.)
- Parking space is limited. Please use public transportation.
- Other additions and updates will be made to these precautions, so please be sure to check the museum homepage before visiting.

Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday)

New Year holidays (Dec.29-Jan.3)

Group Discount: Groups of 20 + visitors will receive a 20% discount on admission fee both collection and special exhibitions.

Disability certificate holders will be admitted at 50% the general rate

Access:

5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)

5-minute walk from Roka Koshunen (take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-karasuyama Station [Keio Line])

* The number of parking spots available for use is limited. Please use public transportation.